

# 水の 話

FujiClean NEWS

2023  
Spring

no.199

[特集]

## 渡り鳥が集い、生態系を育む 「ふゆみずたんぼ」

人と鳥との共生への道を拓いた日本の伝統農法

# 渡り鳥が集い、生態系を育む「ふゆみずたんぼ」

## 人と鳥との共生への道を拓いた日本の伝統農法

穀倉地帯で知られる宮城県北部・**蕪栗沼**には、毎年10万羽を超える渡り鳥が訪れます。マガンやハクチョウ、カモなど、さまざまな水鳥が冬を越す、貴重な生息地です。「ふゆみずたんぼ」は、こうした渡り鳥たちのねぐらを創出するために始まり、やがて、さまざまな生物多様性を生み出す、新たな農法として定着していきました。人と、鳥とが、ともに暮らす環境を目指し歩んできた、大崎市の取り組みを紹介します。



### DATA

2022年12月1日現在

大崎市（人口125,632人 面積796.81平方キロメートル）

宮城県の北西部に位置する大崎市は、2006（平成18）年3月、古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併して誕生しました。東西に約80キロメートルの長さを持ち、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された、広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有する四季折々の食材と天然資源、そして地域文化の宝庫として知られています。



## 豊かな湿地環境が残る日本最大級のマガンの越冬地。

### 現代よみがえった江戸時代の伝統農法

稲刈りを終えた秋から冬にかけて、夕暮れになると鳥たちが群れをなしてねぐらである沼へと戻ってくる。そんな壮大な光景が、宮城県大崎市にある蕪栗沼の冬の風物詩となっています。大崎市は宮城県北西部に位置し、鳴瀬川と江合川の2本の河川によって潤われた肥沃な大崎耕土が広がる米の一大産地で、『ササニシキ』や『ひとめぼれ』の発祥地でもあります。旧田尻町エリアには「ラムサール条約」に登録されている「蕪栗沼・周辺水田」、旧古川市エリアには「化女沼」があり、国の天然記念物であるマガンをはじめとする渡り鳥の越冬地であるとともに、四季を通してさまざまな生きものたちが賑わう、生物多様性の宝庫となっています。

この地域が渡り鳥の楽園であるために欠かせない取り組みが「ふゆみずたんぼ」です。現代では、収穫を終えた冬の田んぼは、水を抜き乾いている状態が一般的です。冬の間も田んぼに水を張ることを「冬期湛水」、もしくは「ふゆみずたんぼ」と呼び、農薬や化学肥料に頼らずに生きもの力で稲を育てる環境配慮型農法の一つとして知られています。これは、古くは江戸時代の『会津農書』の中に「田冬水」という言葉が記されており、文中から、冬の間水をかけると泥の中の生きものが増えて田の生産能力が高まることを当時から体感していたことがうかがえます。これを現代よみがえらせた、古くて新しい農業技術が「ふゆみずたんぼ」です。

### 全国のマガンの9割が集まる渡り鳥の楽園

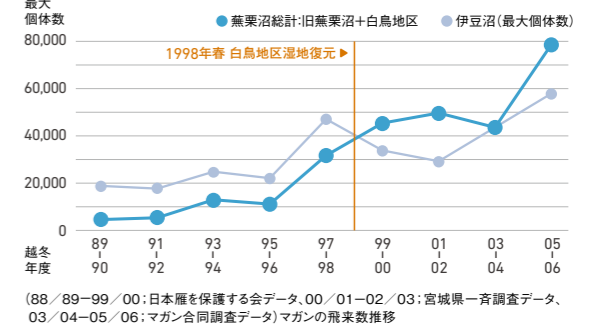
「ふゆみずたんぼ」が導入されたのは、2003（平成15）年、旧田尻町伸筋地区でのことでした。最初は、増えすぎてしまった渡り鳥のねぐらを確保することを目的としていました。冬になると日本には、ガンやハクチョウなどの渡り鳥がやってきますが、渡り鳥は「採食地」となる広い田んぼと、「ねぐら」となる浅い沼がなくては生きていけません。さらに採食地の田んぼは、ねぐらから半径10キロメートルの範囲内。そのため、水田に隣接する蕪栗沼、伊豆沼、内沼といった大きくて浅い沼があるこの地域は、渡り鳥にとって絶好の環境です。100年ほど前までは、日本各地に沼や田んぼがありましたが国内の湿地環境は徐々に失われていきました。一方で天然記念物に指定されたガンの数は増えていき、日本に飛来するマガン全体の8～9割が宮城県北部に集まるようになってしまいました。マガンの群れが集中したことで、ねぐらである沼は過密状態となり、水の汚染や伝染病の発生といった新たな課題が生じたのです。

### 渡り鳥の一極集中を解消する水田の復元

渡り鳥の一極集中の改善策のきっかけになったのが、旧田尻町での湿地復元の取り組みでした。現在は、10万羽を超える渡り鳥が飛来してくる蕪栗沼ですが、1990年代前半頃は1万羽程度でその存在もあまり知られていませんでした。むしろ、この地域の農業者にとっては、渡り鳥は刈り取り後の稲穂を食べる“害鳥”という認識が根強く残っていたのです。また同時に、蕪栗沼は周辺の水田や下流の洪水抑制の役割を担っていたことから、浚渫による遊水池機能の向上が望まれていました。しかし、浚渫が行われれば、蕪栗沼の豊かな湿地景観も、生物生息環境も失われてしまいます。

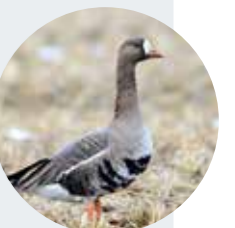
そこで旧田尻町では、自然の豊かさを保ちながら遊水池としての機能も果たし、地域の農業者にも恩恵をもたらす方法を模索。そして1997（平成9）年、蕪栗沼に隣接する白鳥地区の休耕田を湿地に戻し、渡り鳥のねぐらとして提供する、例をみない事業が始まりました。これにより、飛来するマガンの個体数は大幅に増加。沼に戻した水田が越冬地として有効に機能することが判明したことで、収穫後の冬の期間、田んぼに水を入れて沼の機能を分散させる「ふゆみずたんぼ」の取り組みを、一極集中の改善策として検証することになったのです。

▶ 湿地に復元した白鳥地区水田と蕪栗沼のマガン就峙個体数の変化



### column: マガンってどんな鳥?

マガンはガンの一種で、代表的な冬の渡り鳥です。夏はロシアのツンドラ地帯で繁殖し、秋に約4,000キロメートルの旅をして宮城県北部などに渡ってきます。春になると、国内数カ所を経由した後、いっきにオホーツク海を渡ります。一時は絶滅の危機を迎えましたが、1971年に法律で保護されています。



# 「ふゆみずたんぼ」がもたらした渡り鳥と共生する農業。

## 生命の循環が生み出す多様な効能

2003(平成15)年、旧田尻町が事業主体となり、田園自然環境保全・再生支援事業(農林水産省)を活用して渡り鳥のねぐら環境の創出と、水田農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼプロジェクト」がスタートしました。ふゆみずたんぼは、冬の期間は排水路の循環水や雨水等を活用し、水の確保が可能な範囲内で実践。さらに畔の補強やゲート改修を行うなど、他の乾田状態の田んぼへの漏水防止にも最大限配慮しながら進められていきました。その結果、日中はハクチョウ類、夜間はカモ類が頻りに観察され、警戒心の高いマガンも不定期で観察されるようになりました。

さらに調査を進めると、ふゆみずたんぼは米づくりの面でも良い効果をもたらすことがわかってきました。冬に水を張ることで、稲の切り株やワラなどの有機物が分解され、微生物や藻が発生し、それを餌とする多様な生きものが集まってきます。生きものの活動が「トロトロ層」と呼ばれる抑草効果のある土の層をつくりだし、農薬・化学肥料不使用による栽培を可能にしました。ふゆみずたんぼは、湿地の保全と渡り鳥の保護だけでなく、生命の循環を上手く活用した栽培技術としても確立していったのです。

## 「水田」が入った世界初のラムサール登録地

蕪栗沼や周辺水田での環境保全や渡り鳥との共生の取り組みは世界的にも認められ、2005(平成17)年に「蕪栗沼・周辺水田」がラムサール条約湿地として登録されました。一定規模以上の水田が登録されたのは世界でも初めてのことで、水田が生物の多様性を支える重要な場所として認識されたと言えます。2008(平成20)年には「化女沼」もラムサール条約湿地に登録され、宮城県内では、「伊豆沼・内沼」なども含めた4つもの条約湿地が誕生しています。

また、ふゆみずたんぼで栽培された米は、付加価値の高い「ふゆみずたんぼ米」として販売されました。農薬・化学肥料不使用で栽培するJAS有機米で、食に対する安全・安心を提供するだけでなく、渡り鳥や環境保護という生産者が喜びを感じて生産するシステムを創出しています。また、この取り組みに共感した地元清酒メーカー「一ノ蔵」では、2006(平成18)年より、ふゆみずたんぼで栽培されたササニシキを原料とした「ふゆみずたんぼの純米酒」の製造・販売をスタートさせました。売り上げの一部がNPO法人に寄付されているだけでなく、多くの人に活動を知ってもらうきっかけとしても一役かっています。



写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

- 1-3.天然記念物のマガン、ヒシクイ、ハクチョウをはじめとする渡り鳥の重要な生息地である蕪栗沼
4. 昼間には、渡り鳥が沼周辺の田んぼで落ちモミや畦の草などを食べる姿を目にすることができます
- 5-6.東北最大の低地沼地である伊豆沼・内沼。多くの水鳥の越冬地であり、夏は湖面一面をハスが覆う景勝地としても知られています
7. 2023年で創業50年を迎える一ノ蔵
8. ふゆみずたんぼで栽培された有機米ササニシキを使用した特別純米原酒



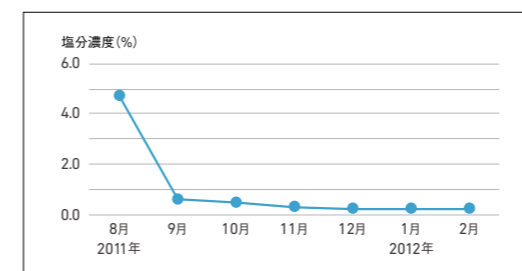
## 全国への普及と被災地復興への貢献

ふゆみずたんぼは、渡り鳥保護と農業の共生による地域活性化モデルとして、次第に全国的にも注目を集めていきました。仲菡地区と同じく鳥類との共生を目指す農山村地域などへの普及活動も、ふゆみずたんぼの活動を支援するNPO法人が中心となって積極的に行っていきました。中でもコウノトリやトキの野生復帰計画に取り組む兵庫県豊岡市の「コウノトリ育む農法」や、新潟県佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり～生きものを育む農法～」としても浸透し、環境教育や国内外の共同プロモーションなど広域連携事業も展開しています。

さらに2011(平成23)年に東日本大震災が発生した際

には、ふゆみずたんぼの生態系復元力が被災地の水田復興に大きく貢献しました。地震による津波が水田にも大きな影響を及ぼしたことを受け、被災して間もない2011年4月より、津波によって塩分濃度が高まってしまった水田復興への取り組みが始められました。多くのボランティアによって瓦礫を丁寧に撤去した後に湛水を行い、川の水や湧水、雨水などを利用して、水の力だけで抑塩することに成功。被災同年には復興・作付けすることができました。また、その後の生物多様性の調査でも、被災直後にわずか4種類しか生存していなかった生物種が順調に種数を回復させ、持続的な湛水システムがあれば、生きものは着実に戻ってくることがわかっています。

▶ 被災水田(塩竈市寒風沢島)の土壌塩分濃度の変化



▶ 気仙沼市本吉町大谷のふゆみずたんぼによる復興事例



2011年4月28日(復元前)



2011年8月25日(復元後)



- 1-2.江戸時代の酒蔵を改装してつくられた商業施設「蔵室」。多くの飲食店をはじめ、「ふゆみずたんぼ米」などさまざまな特産品が購入できる物産センターもある人気スポットです
3. 河川氾濫原を拓き、広域の水田農業地帯として発展してきた大崎耕地
4. 宮城県北部を流れる鳴瀬川は、国内有数の穀倉地帯である大崎耕地を抱えます
- 5-6. 希少生物が棲むため池の外来種駆除や生きもの調査を行っています
7. 大崎耕地について学べる子ども向け冊子



## 自然と人が共生する、持続可能な地域づくり。

### 渡り鳥のねぐら拡大に向けた弛まぬ努力

旧田尻町伸萌地区から始まったふゆみずたんぼは、渡り鳥のねぐらや餌場の分散・拡大化から始まり、生きものの力を活かした農法へと進化しました。今では、長野県安曇野市や新潟県上越市など日本各地でふゆみずたんぼの取り組みが広がっています。伸萌地区でも、約20年の年月を経た現在でも、開始時期と変わらぬ10軒の農家の方々によって、水の確保が可能な範囲で取り組みが続けられています。近年においては、蕪栗沼周辺のは場整備によって、これまであちこちに点在していたふゆみずたんぼを北西部に集約し、配置しました。マガンはたいへん繊細で、開けた空間を好む生きものです。そのため単体での狭い田んぼではねぐらとしての機能を定着させることが難しかったのですが、は場整備によって数ヘクタールの大きな湿地ができたことで、屋間だけでなく夜間も居続けるようになりました。20年前に描いた「ふゆみずたんぼをマガンのねぐらにする」という目標に近づくため、マガンにとってより良い環境をつくる努力が、今もなお続けられています。

### 人、鳥、生きものが共生できる社会を目指して

現在、蕪栗沼・周辺水田は、日本最大級のガンカモ類の越冬地となり、マガンをはじめとする鳥や魚、イトミヅズやカエル、クモなど豊かな生態系を育んでいます。さらに蕪栗沼を含む大崎耕地は、2017(平成29)年に「持続可能な水田農業を支える大崎耕地の伝統的水管理システム」で国際連合食糧農業機関(FAO)から世界農業遺産\*にも認定され、新たな魅力を発信しています。地域全体が豊かな自然を大切な資源と考え、地域農業者や子供会、地元NPOが協働し、水田魚道やピオトープの設置、田んぼの生きもの調査に取り組むほか、小・中学校の総合学習でも蕪栗沼やふゆみずたんぼを題材とした環境教育を積極的に取り入れています。かつて害鳥だった渡り鳥は、いつしか地域の象徴となり、未来につなぐ遺産へと変わりました。マガンが食べる米と私たちが食べている米が同じように、人と生きものが共生できる地域づくりの大切さを、毎年4,000キロメートルという距離を渡ってくる鳥たちが教えてくれています。

\*世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域を、国際連合食糧農業機関により認定する制度。世界では23カ国72地域、日本では13地域が認定されています。

#### [取材協力・写真提供・資料提供]

- 大崎市 産業経済部世界農業遺産推進課
- NPO法人 田んぼ
- 伸萌ふゆみずたんぼ生産組合
- 株式会社一ノ蔵

#### [参考資料]

- 守ってのこそ!いのちつながる日本の自然④ いのちぎわう ふゆみずたんぼ(呉地 正行 著/株式会社童心社 発行)
- シリーズ・いま日本の「農」を問う④ 環境と共生する「農」-有機農法・自然栽培・冬期湛水農法- (古沢 広祐 蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト 村山 邦彦 河名 秀郎 著/株式会社ミネルヴァ書房 発行)
- 生物多様性は復興にどんな役割を果たしたか 東日本大震災からのグリーン復興 (中静 透 河田 雅圭 今井 麻希子 岸上 祐子 編/株式会社昭和堂 発行)



## 水、米、土から農業まで。 環境にこだわり続ける「一ノ蔵」の酒造り。

宮城県大崎市に本社を構える株式会社一ノ蔵(以下、一ノ蔵)は、1973(昭和48)年に宮城県内の4つの蔵元が企業合同し設立されました。創業時より、酒造りに必要な清らかな水と米、それらを育てる風土を大切に、米は約9割を地元・宮城県米、水は敷地内の2本の井戸から汲み上げ、手づくりこだわった酒造りを貫いています。コメの大凶作をきっかけに原料米への関心を高め、1995(平成7)年に地元農家と「酒米研究会」を発足、2004(平成16)年には農業部門「一ノ蔵農社」を立ち上げるなど、積極的に環境保全型農法を取り入れてきました。

2006(平成18)年、一ノ蔵で初めて、ふゆみずたんぼ米を使用した「特別純米原酒ふゆみずたんぼ」が販売されました。鈴木整社長は、「当時、ネットワークを通じてふゆみずたんぼの活動を知り、ぜひその米でお酒をつくらせて欲しいと興味を持ちました。有機栽培の米でつくられた酒は、雑味も少なくきれいな味わいが持ち味です。蔵人も、良い米だからこそ良いお酒をつくらなければならないという覚悟で毎回仕込んでいます」と導入の経緯とその思いを語ります。ふゆみずたんぼ米による醸造は、今も大切に続けられ、生産組合と二人三脚の酒造りが行われています。

約50種類もの商品ラインナップを有する一ノ蔵では、昨年12月には、米作りから酒造りを一貫して行う新プロジェクトによる「イチからはじめのイチノクラ」シリーズを発売しました。環境にこだわる一ノ蔵ならではの視点で生み出される商品は、今後も酒造りだけでなく、地域振興の面からも、新風を吹き込んでいくでしょう。



1. 3トン仕込みタンクが並ぶ仕込み室
2. 代表取締役社長 鈴木 整 氏
3. 一ノ蔵が管理・運営する「松山酒ミュージアム」

海外導入レポート

## 米国アラバマ州に残る深刻な汚水問題に挑戦。 官民一体のプロジェクトにフジクリーンが参画！

Tackling the raw sewage crisis in Alabama, U.S.  
FujiClean is participating in this public-private partnership project!

### 先進国米国で未処理排水による衛生環境の悪化

米国南部に位置するアラバマ州ラウンズ郡は、粘土質の土壌を有するブラックベルト地帯と呼ばれる地域です。この地域の低所得世帯の約8割は、公共の下水道につながっておらず、排水を処理するための設備を各家庭で設置しなければなりません。しかし多くの家庭では、排水処理装置を購入、維持するための費用を捻出することができず、トイレを含むすべての排水を、家から数メートルのところそのまま放流しています。雨量が多い時などは、未処理の排水が住居の中に逆流してしまうことがあり、地域住民を苦しめてきました。20年以上にわたりのこうした衛生環境の悪化が深刻化する中で、アラバマ州公衆衛生局がこの課題を解決するため「ブラックベルト未整備排水プログラム」を立ち上げました。このプロジェクトに、民間企業として水回り設備の技術を持つ、株式会社LIXIL（リクシル）が最初に参加を表明。さらにLIXILの呼びかけによって、排水処理設備の専門知識を持つフジクリーンも参画を決めました。

### フジクリーンシステムで衛生課題の解決を目指す

衛生課題を解決するため、100世帯を対象にフジクリーンシステムによる試験運用が開始されました。フジクリーンシステムは生物膜法を用いて排水を高度に処理できるため、放流先で詰まってしまうこともなく、住居への汚水逆流の不安は解消されてきています。さらに試験運用では、さらなる設置コストの低減をはじめ、LIXILの節水機器を導入することで処理の必要な排水量を減らし、システムの負担軽減や水の節約を実現する新たなチャレンジも進められています。

米国では、下水道が利用できず、不適切な汚水処理による衛生問題や環境問題に悩む地域が多くあり、このプロジェクトが課題解決のモデルケースになるとして注目されています。

### Deteriorating sanitary environment caused by untreated wastewater, even in the U.S, a developed country

Lowndes County, Alabama, is located in the southern United States in the Black Belt region, known for its rich clay soil. About 80 percent of the low-income households in this region are not connected to the public wastewater system, and must install their own facilities to treat their wastewater. However, many families cannot afford to purchase and maintain a wastewater treatment system. All wastewater, including toilet sewage, is discharged directly into the ground several meters from the house. When there is heavy rain, the untreated sewage can flow back into the house and cause suffering for the residents. This sanitary environment has only worsened over the past 20 years, prompting the Alabama Department of Public Health to launch the "Black Belt Unincorporated Wastewater Program" to address this issue. LIXIL Corporation, a private company with expertise in plumbing technology, was the first to announce its participation in the project. Following LIXIL's appeal, FujiClean, which has expertise in wastewater treatment facilities, decided to join the project.

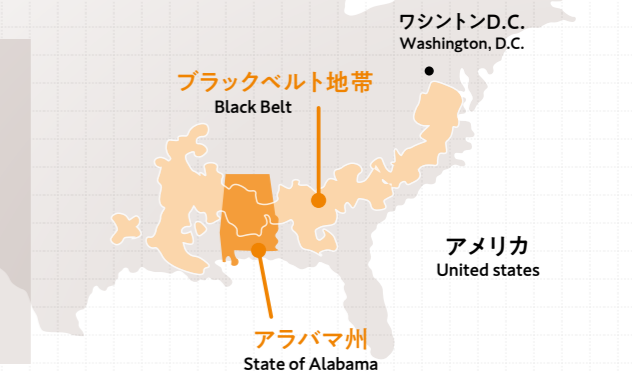
### Aiming to solve sanitation issues with the FujiClean System

A pilot project that aims to solve sanitation issues has been started at 100 homes, employing the FujiClean System. The FujiClean System uses a biofilm method to treat wastewater to a high degree, so the discharge pipe does not clog at the outlet, and the concern of sewage backflow into the homes is being resolved. This pilot project is taking on new challenges, such as further reducing installation costs and installing LIXIL's water-saving equipment to reduce the treatment and disposal volume, ease the system's load, and save water. In many areas in the U.S., sewage systems are unavailable, and residents suffer from sanitation and environmental problems caused by improper sewage disposal. This project is drawing attention as a model case for resolving these problems.

### アラバマ州ラウンズ郡 Lowndes County, Alabama

米国南部に位置する人口10,000人ほどの郡で、アラバマ州とミシシッピ州にかけて広がる「ブラックベルト地帯」に位置する。プレーリーと呼ばれる草原地帯と、肥沃で粘土質の土壌で水はけが良くない特性を持つ。

Lowndes County, with a population of approx. 10,000 residents, is located in the southern U.S., in the "Black Belt Region" stretching across the states of Alabama and Mississippi. The region has prairie grasslands and fertile, clay soil with poor drainage characteristics.



1. 役所、大学、メーカー、施工会社で組織されるプロジェクトメンバーによる打ち合わせ
2. 住民向けの説明会に100名以上が参加し、新たに数十件の申し込みがあった
- 3-4. 試験設置をしたフジクリーン浄化槽を視察
1. Meeting of project members consisting of government offices, universities, manufacturers, and construction companies.
2. More than 100 residents participated in the briefing session. Several dozen new applications were received.
- 3-4. Inspecting the FujiClean system installed as part of the pilot program.

### アラバマプロジェクトも掲載！

### フジクリーンのWebサイトにサステナビリティページを公開しました。

フジクリーンは、理念である「フジクリーンが目指すもの」の実現に向けて企業活動を行っており、同時にその活動は、SDGsの実現に貢献できると考えています。この度フジクリーンでは、持続可能な環境・社会・組織のため、私たちが取り組むべき項目をステートメントとして策定し、Webサイトで公開。これまでの取り組みとともに紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



新製品

## 浄化槽の保守点検の手間とコストを削減！ 遠隔監視サービス 「fuwamo」を発売

フジクリーンは、2022(令和4)年12月より浄化槽を遠隔で監視する新サービス「fuwamo(フワモ)FujiClean water monitoring system」の販売をスタートしました。「fuwamo」の導入によって、対応する浄化槽の運転状況を現場以外の場所から把握できるようになり、保守点検の回数やコストの削減、故障の早期発見など多くのメリットが得られます。

fuwamo



通信端末機器

### 1 遠隔監視機能で 保守点検の回数が半分に!

現在、浄化槽の保守点検は処理対象人員ごとに回数が定められており、例えば人員数51人以上の膜分離活性汚泥方式の場合は1週間に1回の保守点検が必要です。しかし2021(令和3)年に遠隔監視機能<sup>※1</sup>を有する浄化槽の保守点検の回数が改められ、人員数51人以上の膜分離活性汚泥方式は2週間に1回となりました<sup>※2</sup>。フジクリーンの遠隔監視装置「fuwamo」を導入することにより、年間52回だった保守点検が半分の26回に低減でき、ランニングコストを抑えることができます。

※1 遠隔監視機能とは、遠隔地から浄化槽の機能が適切に維持されることを確認でき、異常時は速やかに適切な措置をとる体制が確保されていることをいいます。

※2 遠隔監視機能を有する浄化槽の保守点検の回数を定める件(令和3年環境省告示第59号)の公布について  
<https://www.env.go.jp/press/110045.html>

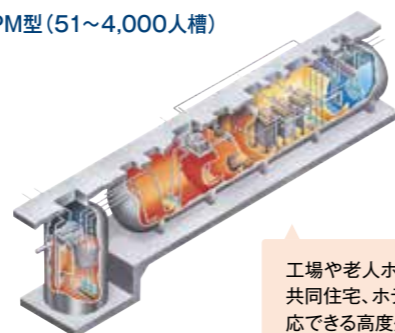
#### ■ 遠隔装置導入による変化

	遠隔操作なし	遠隔操作あり
点検頻度	1回/1週	1回/2週
年間点検回数	52回/年	26回/年

### 2 膜差圧を感知し、 故障の早期発見に貢献!

「fuwamo」は、膜分離活性汚泥方式の浄化槽に導入が可能です。フジクリーンの製品ではPM型・PMJ型が対象となり、既設の膜分離活性汚泥方式の浄化槽に後付けすることも可能です。センサーが通常と異なる膜差圧を感知することで、膜の目詰まりや膜の破損などの異常を推測します。特に、膜分離装置の目詰まりやMLSS(活性汚泥浮遊物質)濃度の異常は、重大なトラブルを招く恐れがあるため、故障を早期発見することで速やかに対処ができ、二次的なトラブルによって生じるコストの低減が期待できます。

#### ■ PM型(51~4,000人槽)



工場や老人ホーム、病院、共同住宅、ホテルなどに対応できる高度処理浄化槽

#### 【 fuwamoによる遠隔監視機能のイメージ 】



#### 「fuwamo」導入のメリット

- 1.故障を早期発見できるので安心!
- 2.保守点検の労力を削減できる!
- 3.点検回数の減少でランニングコストも削減!

お知らせ

## 茨城営業所が移転しました。

2023(令和5)年2月20日より、茨城営業所が事務所を移転しました。新事務所は右記になります。

茨城営業所 新事務所開所日 2023年2月20日

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1丁目11番地9 TOSビルⅢ2-BC  
TEL.029-851-0031 FAX.029-851-0033

※TEL、FAX番号が変更となりましたのでご注意ください。

働きがい  
向上紹介  
09

## 職場の一体感を高める 「チームビルディング研修」を実施

フジクリーンでは、職場の一体感を高めることが働きがいの向上につながると考え、製造職を対象とした「チームビルディング研修」を那須工場で開催しました。研修では下記の2つのワークに取り組みました。

約3時間の短い時間でしたが、研修後には、「仲間との信頼関係が深まった」、「チームワークの大切さを改めて感じた」といった声を多く聞くことができました。今後は、他の工場にも展開すると同時に、さまざまな取り組みを通して、職場の一体感を高めていきます。

#### ● 自己紹介ワーク

さまざまなカードを使い、お互いの理解を深めました。

#### ● チームで力を合わせるワーク

グループに分かれてゲーム感覚で競争。途中、作戦タイムをはさむことで、ゲームが一層盛り上がりました。



研修中の様子



もっと  
**motto!**  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

〈愛知県名古屋市〉  
名東自然倶楽部



会長 高木 和彦さん(左)  
会計 古川 文子さん(右)

## い たかりよく ち 都市に残る貴重な「猪高緑地」を 市民の力で守っていく



100名以上が参加した親子田んぼ体験会



自然体験会では協力して生きもの探し



◀ 繁殖した  
竹を伐採

名古屋市名東区にある「猪高緑地」は、66.2ヘクタールの広大な敷地に、溜め池や希少生物が息する自然があふれる都市緑地です。かつては棚田や畑で農耕が行われ落葉掻きや薪炭を得る里山でしたが、時代の変遷により放置され、次第に荒れた森へと変化していきました。その状況をなんとかしたいという市民が集まり、1998(平成7)年に「名東自然倶楽部」を結成。名古屋市と「緑のまちづくり活動に関する協定」を結び、猪高緑地の自然保護と森の保全活動を続けています。

現在は、約80名の会員が9つのグループをつくり、調査、保全、教育など多様な活動を展開しています。例えば里山保全グループでは、急速に拡大した竹藪が他の生物の成育を妨げていることから、定期的に伐採を実施。伐採した竹は、一部を粉砕機で細かく砕いた「竹チップ」にしたり、乾燥させて竹炭を焼いたりしています。また近年、ウォーキングや散歩を楽しむ人が増えたことで、散策路から流出する土砂による溜

め池の貯水量の減少が顕在化してきました。そこで、水環境の保全に取り組む水の環グループが中心となって、竹チップを散策路に敷き詰めることで散策路の削れを防止しています。また溜め池に残る希少生物を守るために、有識者の方からのアドバイスをもらいながら生きもの調査や池干しなどを行い、外来種の除去にも努めています。

他にも名東自然倶楽部では、市民が気軽に自然と触れ合う機会をつくるために各種イベントを開催。自然観察会をはじめ、近隣の小中学校の総合学習支援、企業との協働による環境活動にも取り組んでいます。2001(平成13)年に復元された棚田では、無農薬・有機農法、昔ながらの農具を利用して、毎年、市民参加型で米づくりを行っており、親子連れに人気です。こうした活動が認められ、2014(平成26)年には「第34回緑の都市賞」の緑の市民協働部門で国土交通大臣賞を受賞。今後も、市民が互いに協力し、都市に残された貴重な自然や生物を守り、つなげていきます。

## 美しい水を守る フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	宇都宮営業所 (028)625-4650	三重営業所 (059)213-5520	宮崎営業所 (0985)32-3064
東北支店 (022)212-3339	群馬営業所 (027)327-5611	和歌山営業所 (073)422-3634	鹿児島営業所 (099)257-3501
東京支店 (03)3288-4511	埼玉営業所 (048)660-5050	広島営業所 (082)843-3315	沖縄営業所 (098)862-9533
名古屋支店 (052)249-5100	千葉営業所 (043)206-5171	高松営業所 (087)869-8680	
大阪支店 (06)6396-6166	新潟営業所 (025)271-8668	松山営業所 (089)967-6123	
福岡支店 (092)441-0222	山梨営業所 (055)275-9300	高知営業所 (088)803-1520	
盛岡営業所 (019)604-2527	松本営業所 (0263)27-2080	佐賀営業所 (0952)31-9151	
郡山営業所 (024)937-0800	岐阜営業所 (058)271-1131	熊本営業所 (096)388-3571	
茨城営業所 (029)851-0031	静岡営業所 (054)286-4145	大分営業所 (097)558-5135	



発行 2023年4月1日  
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室